

望まぬ妊娠・出産の心理学的背景

(分担研究：被虐待児予防の保健指導に関する研究)

花沢成一¹⁾、横田正夫¹⁾、大屋 敦²⁾、大木慧子³⁾、和田佳子¹⁾

要約：児童虐待のハイリスク因子としての「望まぬ妊娠・出産」が、心理学的視点でどのように捉えることができるか、また虐待予防としての支援の必要性について検討した。妊娠否定・分娩否定・児否定の妊産褥婦を対象として、児に対する感情や自身の感情を測定する感情評定尺度とロールシャッハ・テストを実施したところ、対人的関心や対児感情さらに自身の感情状態に問題が見出された。妊娠期や産期とくに出産直後におけるカウンセリングの重要性が指摘された。

見出し語：望まぬ妊娠・出産、対児感情、ロールシャッハ・テスト、感情評定尺度

【研究目的】

虐待のハイリスク因子としての「望まぬ妊娠・出産」が、実際に虐待とどのように関わるものを明らかにすることを目指した研究の先駆的な試みとして、昨年度は望まぬ妊娠の測度となる妊娠モチベーションの測定を妊婦を対象として実施し同時に児に対する感情(対児感情)の測定も試み、両者の関係を検討した。その結果として、妊娠モチベーションの低い、すなわち望まぬ妊娠の度合いが強い妊婦ほど、児に対する愛着的感情(接近感情)が低く、愛着的感情と拒否的感情(回避感情)との拮抗度が高い、という傾向が明らかになった。これによって、妊娠モチベーション質問紙ならびに対児感情評定尺度を妊産婦に適用するこ

とによって、児童虐待の母親の早期発見に役立つことが示唆された。

昨年度の先駆的研究は、質問紙法調査によるものであり、虐待の実相に触れたものではない。本年度は、望まぬ妊娠・望まぬ出産を妊産褥婦の行動面でとらえることが重要であると考えて研究を試みた。すなわち、妊娠したことを終始否定し続けた妊婦、分娩中に拒否的な態度を示した産婦、出産後に新生児に対して無関心な行動をとった褥婦などの心理的特性を明らかにすることを目的として研究を行うことにした。心理的特性としては対象となった妊産褥婦のパーソナリティ、対児感情、妊産褥婦自身の感情状態などとした。

¹⁾ 日本大学文理学部
(Dept. of Psychology, Nihon Univ.)

²⁾ 東京都立荏原病院 ³⁾ 東京都立駒込病院
(Tokyo Metropolitan Ebara & Komagome Hospital)

【研究方法】

1. 調査の実施

東京都立荒川産院外来に通院中の妊婦をまず対象とした。初産婦と経産婦と半数ずつになるようにして、148名に対して昨年度も実施した妊娠モチベーション質問紙の記入を依頼した。この中から、妊婦検診から出産まで継続して受診した者50名（初産婦31名、経産婦19名、平均年齢29.0歳、精神科既往歴なし）を選んで、調査を実施した。調査期間は、1994年5月～11月である。

これらの人たちに、次項で述べるような質問紙やロールシャッハ・テストを施行した。まず対児感情評定尺度と妊産婦自身の感情をみる感情評定尺度を外来受診時に記入してもらった。ついでロールシャッハ・テストを実施したものである。

この50名の出産後には、個別的に面接を行なった。面接における記録事項は次のとおりである。

- ① 望んだ妊娠かどうか。
- ② つわりの時はどんな様子だったか。
- ③ 胎動を感じた時、超音波画像を見た時、児心音を聴いた時、どんな気持ちだったか。
- ④ 母親と自覚したのは、どんな時だったか。
- ⑤ 妊娠が判明した時からの気持ちの変化は。
- ⑥ 妊娠・出産・産褥期を通しての夫との関係。
- ⑦ 出産の状態
陣痛や産痛はどのようであったか。
陣痛室・分娩室ではどのように過ごしたか。
助産婦や医師との関わりについて。
新生児との出会いについて。
- ⑧ 産褥期の状態
新生児の状態について。
乳汁分泌について。

身体状況について。

⑨ 現在、一番不安なこと。

⑩ 再妊娠・出産願望について。

さらに、分娩部スタッフに依頼して、出産後の母親行動について評価してもらった。評価に当たっては、行動評価表を作成して、これに記入を依頼したものである。内容は次の6項目であるが、各項目ともに5段階評価とした。

☆ 分娩直後

赤ちゃんとの接触

（全く触れない — たくさん触れた）

赤ちゃんへの話しかけ

（全く話しかけない — たくさん話しかけた）

赤ちゃんへの注視

（目をそらす — じっと見る）

☆ お部屋で

赤ちゃんの啼泣時

（見向きもしない — すぐにあやす）

オムツ交換時

（たんとんと — 話しかけながら）

授乳時

（コミュニケーションとらず — とりながら）

☆ 退院時

育児について

（関心がない — たくさん質問した）

☆ その他

（気づいた点を自由に記入してもらった）

ここで行なった面接と行動観察評価の結果を中心に、次の7名を抽出した。まず、面接によって今回の妊娠を否定していることが明らかになった者、つまり望まぬ妊娠をしたという者は50名中18名であったが、とくに否定的であった妊婦3

名、出産の時に拒否的態度や行動を示した産婦2名、出産後に新生児に対して否定的な行動を示した産婦2名の計7名である。本研究では、これら7名のロールシャッハ・テスト、対児感情評定尺度、感情評定尺度の結果を分析した。

2. 使用した質問紙

対児感情評定尺度については、昨年度の報告書で説明したので、ここでは省略する。

妊産婦自身の感情状態を測定するための感情評定尺度は、末尾の別表に示すとおりである。はじめに教示として「あなたの今日の気持ちをおたずねします」として、28の項目からなる単独形容詞SD法で、4段階評定となっている。形容詞のうち、ほほえましい・やさしい・あたたかいなど

は快感情を、もどかしい・けだるい・かなしいなどは不快感情をみる項目である。快・不快ともに14項目からなり、採点は非常にそう思う3点・そう思う2点・少しそう思う1点・ちがう0点としたので、快・不快感情ともに満点は42点である。

ロールシャッハ・テスト（以下、ロ・テストと略す）は投影法人格検査としてよく知られている検査であり、実施法から解釈法までの説明となるとかなり複雑であるから、ここでは省略する。

【結果】

1. 妊娠否定妊婦の場合

望まぬ妊娠をした妊娠否定妊婦3人のテスト結果は、表1～3に示すとおりである。まずAについて見ると、ロ・テストではW%が高く（これは

表1 妊娠否定妊婦Aのテスト結果

Rorschach Test			
Total R : 13			
W	12	H	1
D	1	(H)	1
Dd		Hd	
S		(Hd)	
		A	3
F	4	(A)	2
M	1	Ad	1
FM	3	(Ad)	
m		Atb	
k		Ats	
FK		Xry	1
K		AAAt	
Fc		Obj	2
c		Art	1
FC'	2	Na	1
C'	2		
FC	1		
C			
<hr/>			
対児感情接近	18		
回避	15		
拮抗指数	83		
感情 快得点	12		
不快得点	16		

表2 妊娠否定妊婦Bのテスト結果

Rorschach Test			
Total R : 15			
W	14	H	1
D	1	(H)	2
Dd		Hd	1
S		(Hd)	
		A	5
F	7	(A)	
M	1	Ad	1
FM	3	(Ad)	
m		Atb	
k		Ats	
FK		Xry	
K		AAAt	
Fc		Aobj	2
c		Lds	1
FC'	3	Fire	1
C'		Music	1
FC			
C	1		
<hr/>			
対児感情接近	28		
回避	11		
拮抗指数	39		
感情 快得点	10		
不快得点	12		

表3 妊娠否定妊婦Cのテスト結果

Rorschach Test			
Total R : 16			
W	14	H	
D		(H)	1
Dd	2	Hd	2
S		(Hd)	
		A	3
F	7	(A)	
M	1	Ad	3
FM	5	(Ad)	1
m	2	Atb	
k		Ats	
FK		Xry	1
K		AAAt	
Fc	1	Pl	1
c		Obj	1
FC'		Fire	1
C'		Food	1
FC		Music	1
C			
<hr/>			
対児感情接近	31		
回避	8		
拮抗指数	26		
感情 快得点	16		
不快得点	10		

他の事例も同様)、MよりFM反応が多く、C'も多い。対児感情では接近得点が低く回避得点も高いために拮抗指数が高い。感情は不快得点のほうが高くなっている。

妊婦Bの口・テストは、これもFMがMより多くFC'とCが気になる。反応内容は(H)のほうが多くなり、Fireも見られる。対児感情は接近感情は比較的高いが、拮抗指数もやや高くなった。感情は不快得点のほうが高くなっている。

妊婦Cの口・テストは、これもFMが多く、mとFcが見られる。H反応はなく、Fireがある。対児感情は平均的なもの。感情は快得点のほうが高くなっているものの不快得点も比較的高い。

以上の妊娠否定の3人は、いずれもTotal Rが

が非常に少ない。この生産性の低さがこの群の特徴のようではあるが、分娩否定の産婦Bの場合も少ないので、明確にはいえない。

2. 分娩否定産婦の場合

分娩時に否定的行動をとった産婦2人のテスト結果は、表4と5に示すとおりである。

産婦Aの口・テストは、FMよりMのほうが多くなっているが、FK、Fc、FC'の出現が気になる。反応内容では(H)がHより多い。対児感情は平均的だが、感情は快得点がやや低い。

産婦Bの口・テストは、反応決定因でFMが非常に多く、mも見られるが、その他の決定因はあまりない。人間反応や人間運動反応が欠如していることになる。対児感情は平均的であり、感情も快

表4 分娩否定産婦Aのテスト結果

Rorschach Test			
Total R : 21			
W	17	H	3
D	2	(H)	4
Dd	2	Hd	
S		(Hd)	1
		A	2
F	12	(A)	3
M	3	Ad	3
FM	1	(Ad)	1
m		Atb	
k		Ats	
FK	3	Xry	
K		AAAt	
Fc	1	Obj	
c		Pl	1
FC'	1	Arch	1
C'		Lds	1
FC		Food	1
C			
対児感情接近 29			
回避 8			
拮抗指数 28			
感情 快得点 17			
不快得点 6			

表5 分娩否定産婦Bのテスト結果

Rorschach Test			
Total R : 12			
W	10	H	
D	2	(H)	
Dd		Hd	
S		(Hd)	1
		A	5
F	3	(A)	2
M		Ad	
FM	7	(Ad)	
m	1	Atb	
k		Ats	
FK		Xry	
K		AAAt	
Fc		Obj	1
c		Fire	1
FC'		Music	1
C'		Cloth	1
FC	1		
C			
対児感情接近 27			
回避 2			
拮抗指数 7			
感情 快得点 17			
不快得点 3			

表6 児否定産婦Aのテスト結果

Rorschach Test			
Total R : 25			
W	19	H	5
D	4	(H)	2
Dd	2	Hd	
S		(Hd)	1
		A	6
F	6	(A)	
M	7	Ad	6
FM	6	(Ad)	
m		Atb	2
k		Ats	1
FK		Xry	
K		AAAt	
Fc	1	Aobj	1
c		Obj	1
FC'	2		
C'			
FC	3		
C			
対児感情接近 14			
回避 17			
拮抗指数 -82			
感情 快得点 20			
不快得点 15			

感情がやや低いという程度である。

3. 児否定褥婦の場合

出産後に児に対して無関心であった褥婦のテスト結果は、表6に示すとおりである。

褥婦Aのロ・テストはTotal Rが25と比較的多いほうでM反応も多いが、FMも比較的多い。FcとFCも見られる。反応内容ではHは多いもののAt反応の出現は気になる。対児感情は、児否定だけあって接近得点よりも回避得点のほうが高くなった。感情は快得点は平均的だが、不快得点が高くなっている。

褥婦Bは、ロ・テストを実施することができなかったため、表は掲げていない。対児感情では接近得点が21、回避得点が2、拮抗指数が10となり接近得点がやや低くなっている。ただし回避得点も低い。感情は快得点が18、不快得点が2で、これは平均に近い。

以上のように各群ともに個人差はかなり見られるものの、ロ・テストから見ると対人関係や対人的感受性に問題のある傾向が認められる。また、対児感情では接近感情と回避感情との相克度を示す拮抗指数の高い人が多く、とくに出産後に児に対して否定的行動を示した1例は、接近得点より回避得点のほうが高く、拮抗指数も極めて高かったことは注目される。

【虐待予防への対策】

本研究の目的の一つは、望まぬ妊娠や出産をした妊産褥婦が、虐待する親へと繋がらないようにするための対策を考察することにもあるので、調査から得られたわずかな知見から決定的な対策を述べるのは難しいが、興味深い調査結果が見出されたこともあるから、これまでのこの分野におけ

る研究成果や臨床経験による知見を加えて考察する。

(1) 婚前からの学習 ロールシャッハ・テストに見られた対人関係や感受性の問題、あえていえばその未熟さは、幼少期からの家庭生活における体験に、その根を見出すことになるであろう。家族関係、とくに親子関係がどのようなであったか問われることになる。そこで妊娠期には、家族とは何かについて再学習する必要がある。あたたかい雰囲気の家や明るい家族を観察学習する機会を多く与えることが望ましい。

(2) 対児感情の育成 母親の児に対する感情を母性愛という本能的視点で捉えるのではなく、愛着的感情と拒否的感情との相克の間にさまよう母親の体験として理解しようとする立場をとるとすれば、それは現実社会における子どもとの関わりのなかで生成し発達し育成されるものと考えることができる。妊娠期における母親学級はもちろんのこと、その期間にさまざまな機会を設定して、対児感情の育成を図りたいものである。

(3) 妊娠・出産体験の受容 感情評定尺度によって、望まぬ妊娠・出産をした人に、快感情の低い傾向が認められたが、感情は不合理な体験であるから、知識や単なる説得では容易に変動しないものである。とくに妊産褥婦は、自分が体験している、あるいは体験した妊娠や出産について否定的に感じていることが多いので、多少の説得では感情まで動かすことは難しい。しかし出産直後に面接して、直前に体験した分娩経過や妊娠経過についての訴えを受容的態度をもって聴き、体験について肯定的な評価を与えるようなカウンセリングは褥婦の感情の安定化を促進することになる。

別表

感情評定尺度

この評定表は、あなたの感情の状態を知るために行うものです。

あなたの「今日の気持ち」をおたずねします。

下の言葉の右にある4段階のうち、あまり悩まずに、あなたの感じられたところに○をつけてお答え下さい。

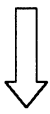
[記入例] かっていい …………… 3 2 ① 0

	非 常 に そ う 思 う	そ う 思 う	少 し そ う 思 う	ち が う		非 常 に そ う 思 う	そ う 思 う	少 し そ う 思 う	ち が う
ほほえましい ……………	3	2	1	0	すがすがしい ……………	3	2	1	0
もどかしい ……………	3	2	1	0	しめっぼい ……………	3	2	1	0
やさしい ……………	3	2	1	0	ほこらしい ……………	3	2	1	0
けだるい ……………	3	2	1	0	はずかしい ……………	3	2	1	0
あたたかい ……………	3	2	1	0	おもしろい ……………	3	2	1	0
かなしい ……………	3	2	1	0	いまましい ……………	3	2	1	0
うれしい ……………	3	2	1	0	はればれしい ……………	3	2	1	0
さびしい ……………	3	2	1	0	なさけない ……………	3	2	1	0
たのしい ……………	3	2	1	0	こころよい ……………	3	2	1	0
つまらない ……………	3	2	1	0	おもくるしい ……………	3	2	1	0
あかるい ……………	3	2	1	0	めざましい ……………	3	2	1	0
こころぼそい ……………	3	2	1	0	うっとうしい ……………	3	2	1	0
よろこばしい ……………	3	2	1	0	ありがたい ……………	3	2	1	0
おそろしい ……………	3	2	1	0	く ら い ……………	3	2	1	0



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約：児童虐待のハイリスク因子としての「望まぬ妊娠・出産」が、心理学的視点でどのように捉えることができるか、また虐待予防としての支援の必要性について検討した。妊娠否定・分娩否定・児否定の妊産褥婦を対象として、児に対する感情や自身の感情を測定する感情評定尺度とロールシャッハ・テストを実施したところ、对人的関心や対児感情さらに自身の感情状態に問題が見出された。妊娠期や周産期とくに出産直後におけるカウンセリングの重要性が指摘された。